

特集

もつと社会へ目を向けよう

災害

心穏やかに暮らすことは意外に難しい。ましてや生きづらさを抱え込むような立場に追いやられての生活を強いられている場合は、なおさらです。知ろうとせずには生きるのは簡単ですが、弱い者に寄り添ってくださる主にならう生き方ができたらと…。初回は、災害に目を向けてみました。

スコップ1杯ずつで救い出し

西日本豪雨で被災して

広島教会 広島礼拝所 T・T

全国と海外教会の皆さまからのお祈りとお支えをありがとうございます。まだ復旧途中ですが、今までを感謝してお伝えします。

西日本豪雨により呉市安浦町の自宅は二度の床上浸水に遭い、被災しました。一度目は7月6日(金) 21時頃。家の中に入ってきた水は、あつという間に足下を濡らし、急いで2階へと避難しました。夜中1時頃には一旦水は引き、ホツとしていたのですが、7日の朝方4時頃から二度目の浸水が始まりました。水の勢いが非常に強く、外を見ると家の前の道路は、濁流の河に変貌しており、水かさは、どんどん増えていきます。恐怖を感じ11

9番に連絡しましたが、すぐの救助はムリとの返事。叩きつける雨音を聞きながら、このまま家と一緒に流されるかもしれない、そう思った瞬間とつきに出てきたのは「主の祈り」でした。停電で真っ暗闇の中、ひたすら主の祈りを唱え続けました。外が明るくなると雨は止み始め、水かさも減っているのが分かりました。これなら大丈夫、助かった！と朝日の中で安堵の涙がこぼれました。昼前には、水の中を歩いて、無事に避難できました。次の日、家に戻ると玄関の扉は流され、大切なピアノも家具、家電も全て泥まみれ。まるで地獄絵図…。途方に暮れていましたが、7月11日には広島教会から伊



藤先生ほか3名の方が船で安浦へと駆けつけてくださいました。水道は止まり、トイレも使えず、泥まみれの作業は困難を極めました。暑さは作業を阻み、言葉にならない苦労の連続です。そんな大変な作業をしに7月13日には山口、岡山の教会から、7月19日には熊本、兵庫の教会から先生方が支援に来てくださり、夏休みには高校生、大学生が大勢来られて、近隣のお宅へもボランティアが出来ました。泥と汗にまみれながら、スコップ1杯ずつの泥をかき出してもらったお陰で、泥の中から救い出していただきました。

作業をされた皆さま、お一人お一人のなかに、確かにイエス様を感じることできた夏でした。本当にありがとうございました。

祈りと想いを重ねて

大阪北部地震と台風21号

豊中教会 秋山 綾子

日本各地で自然災害が多発した昨年。6月18日朝に起きた「大阪北部地震」では、私たちの教会に目立った損壊はなかったものの、豊中市役所から、教会敷地を囲むブロック塀が倒壊する恐れがあるので撤去するようにとの通達があった。この地震で同府高槻市の小学校のブロック塀が崩れ、女の子が下敷きになり死亡した痛ましい事件があったからです。

さらに、9月4日、台風21号が豊中市を直撃。市内では、停電が7日間も続いたところも。私たちの教会では、暴風により礼拝堂の外壁が崩落し、ガラス窓7枚が割れました。

教会員皆で礼拝堂床のガラス片を拾い、被災した方たちを想い祈りました。



被害に遭った豊中教会

聴く 祈り続ける

西日本豪雨災害でのボランティア

徳山礼拝堂 平岡いずみ

8月、呉市安浦を訪ねた。1か月経っても水害の爪痕は深く、早朝の陽ざしの中、道は固く乾いて埃を巻き上げていた。潮の香りに土砂のにおいが混じる。

土間のある大きな家は、故郷の家に似ている。お父様の蔵書を棚から取り出し、床に並べる。痛んだ本も廃棄用の土のう袋に入れるかどうか確かめながら作業する。過去に二度も浸水被害に遭い、大切なものは高い所にしまっておけと言われてたお母様の知恵に助けられた。豪雨時には食器棚も水に浮かんだ。何とか残った食器の泥を水で丁寧に流す。

連日の復旧作業でお疲れなのに、前向きに体験を語ってください。自分や親に



呉市安浦町での作業

姿を重ねると言葉が出ない。ただ聴いて、心の奥深く沈め祈り続けよと、私に託されたと感じた。

Amazing Grace !

驚くべき主の恵み

熊本地震 避難所が家族に

健軍教会 安藤 恵

2016年4月、熊本は大きな地震を二度経験しました。

健軍教会は震源に近かったため近隣の多くの家々が被災し、急ぎよ教会を私設避難所としました。当初は50名ほど受け入れ、日々寝る場所と3食を用意。教会員と教会が初めてという近隣の方が半々くらいで、年齢の幅も3歳〜93歳と広く、障がいを持った方、外国籍の方、性的少数者、大きな体育館に避難し孤立してしまっていた独居高齢者などさまざま。日々続く余震の恐怖や募る不安は皆で半分に、うれしかったことは倍に、お互いを気遣いながら家族のように暮らしました。

やがて障がいを持った方を誰ともなく自然に手伝うようになり、堅い表情のままだった方が閉所の頃には笑顔を見せてくれました。今でも時折おしゃべりに来てくださったり、バザーにも顔をのぞかせてくださいます。

そして信じられないくらい嬉しいことですが、何人かの方が礼拝においでくださるようになり、しばらくして受洗へと導かれたのでした。私たちはそんなことを期待するはずありませんでした。神様のなさることは本当に計り知れません。